

兵庫県加東郡滝野町方言の待遇表現

黒崎 良昭

I. はじめに

- (1) 調査対象地：加東郡滝野町は、兵庫県南部のほぼ中央にあり、加古川の中流域に位置する。古く加古川が舟運に利用されていた頃は、米や材木、日用品の集散地として栄え、あるいは飛船の名勝として京阪神からも多くの観光客を集めていた。現在は、町の南部を走る中国自動車道を利用すれば、町南東部の滝野・社インターチェンジから大阪の中心部まで約1時間という便利さから、町内に大規模な工業団地ができ、小規模マンションや1戸建て住宅が急増している。その結果、周辺の市町が過疎化を見せているにもかかわらず、ここ5年間で1割の伸びを示すほど人口は増え続け、つい最近、町の人口は1万1千人を越えた。
- (2) 調査年月日：1996年12月7日
- (3) 話者：梶原ちづゑ 大正15年6月生まれ（70歳）
- (4) 調査者・調査場所：黒崎良昭・話者自宅
- (5) 調査方法：統一調査票による質問調査。一問一答式の質問法によった。
- (6) 表記方法：カタカナによる音声表記とする。アクセントは高音部に上線を付して示した。〔 〕内は話者の説明、〈 〉内は調査者の説明である。

II. 調査結果

1. 尊敬表現

1-1 対者敬語

- (1) A お前は アンタ 〈助詞の「ワ」は隠在している。他に、オマハン（オマエサマの転）も聞くが、この話者の使用語彙にはない。〉
元気かね ダンキ シトッテ カー。 / シトッテ ノン。〈「シトッテ」の「～テ」は、テヤ敬語の一用法であり、軽い敬意を表す。〉〔「親しき仲にも礼儀あり」で、親しい友人であっても、「ダンキ シトッ カー。」と通常体で尋ねることはない。近所の人たちの中には通常体で尋ね合っている人も多いが、私は、通常体は、嫁に出した娘等、ごく身近な人以外には使わない。元小学校教師であったことが影響しているのかも……との説明があった。〕
- B あなたは 〔通常「あなた」の部分は言わない。強いて言うとするれば「おばちゃん」「おばあちゃん」か。〕〈言わないところに敬意が表されているとも言えよう。〉
元気ですか オダンキデッ カ。 / ドナイデッ カ。

C あなたは [通常「あなた」の部分は言わない。強いて言うとするば「町長さん」「大久保先生」などのように役職名かそれに姓を付けた呼称を用いる。] <ここでも上記同様呼ばないが、これらの場にふさわしい対称代名詞が当地にないのも一因と考えられる。「おたく」「おたくさん」などもあるにはあるが、このような場面では敬意の点で十分とは言えないようである。>

お元気ですか オゲンキデス カー。 / オゲンキニ シトツテデス カー。

(2) A あしたは家にいるか アシタ オツテ カー。 <上記(1)同様、「～テ」に軽い敬意が込められている。以下同じ。>

B あしたは家にいますか アシタ オツテデッシャロ カー。 / オツテデス カー。

[この段階までは居ると言えば家に決まっているので、ことさらイエニとは言わない。]

C あしたは家におられますか アスワ イエノ ホーニ オラレマス カー。 / オツテデッシャロ カー。 <「アシタ」が荘重語「アス」に言い換えられている。>

(3) A あした行くか アシタ イテ カー。 / イテヤロー。 <「イッテ」の促音が脱落したものの。以下同じ。高年層に多い変化である。>

B あした行きますか アシタ イテデッ カー。 <丁寧語「デス」の促音化したもの。> [行くかどうかははっきりしない場合] / イテデッシャロ ナー。 <「デスヤロ」の転。> [念を押す場合]

C あした行かれますか アシタワ イカレマス カー。 / イラッシャイマス カー。

(4) A 温泉に行かないか オンセンニ イテ ナイ カー。

B 温泉に行きませんか オンセンニ イテ ナイデッ カー。 / デス カー。

C 温泉に行かれませんか オンセンニ イカレマセン カー。

(5) A あしたはどんな仕事をしますか アシタ ナニ シテデン ノン。

B あしたはどんな仕事をされますか アシタワ ドンナ ゴヨテイデス カー。

(6) A 見ましたか ミテデシタ カー。 <「ミテデス」は「ミテヤ」(テヤ敬語)の丁寧体。>

B 見られましたか ミラレマシタ カー。

(7) A ゆうべは何時に寝ましたか ユーベワ ナンジゴロニ ネテデシタ カー。

B ゆうべは何時に寝ましたか サクバンワ ナンジゴロニ ヤスマレマシタ カー。 <「ユーベ」が荘重語「サクバン」に言い換えられている。>

C (看護婦が) そのベッドに寝て下さい ソノ ベットニ ネテクダサイ。 <「ベッド」と言っているつもりが「ベット」になっている。「ハンドバック」「ホットドック」なども同様の例で、高年層だけではなく広く全年層に見られる事象である。>

(8) A どこに行っているか 下コ イッキョツテ ノン。 / 下コ イテ ノン。

B どこに行っているのですか 下コエ (下コエ) イッキョツテデンデッ カ。 / イッキョツテデン ノン。 <「イッキョツテデスノン」の転。「行く」+「継続態ヨル」+「テヤ敬語(軽い尊敬)の丁寧体」+「疑問の文末詞ノン」。>

C どこに行っておられるのですか ドコエ イカレテルンデッ カ。/ドコ イッキ
ヨッテンデッ カ。〔後者の方が自然。前者は不在の時に行き先を尋ねる場合にも使う
ので曖昧な表現である。〕

- (9) A どうぞ食べてくれ タベテ。/タベテ ナイ カー。/タベト。(稀)
B どうぞ食べてください タベテ ナイデッ カー。/デス カー。
C どうぞお食べください ドーゾ メシアガツテクダサイ。/ドーゾ ……。〔「後は
察して下さい」という感じで。〕
- (10) A (その写真を私に) 見せてくれないか チョット ミセテ。/ミセテ ナ。/ミ
セテ クレテ カー。/ミセテクレテ ナイ カー。
B 見せてくれませんか ミセテクレテデッ カー。/ミセテモ テモ ヨロシ カ。
C 見せてくださいませんか ミセテイタダイテモ ヨロシ カ。

1-2 第三者敬語

- (11) A (あしたは家に) いるだろう アシタワ オツテヤ ワー。/オツテヤロ オモウ。
/オツテノ ハズヤ デー。
B おられるだろう オツテヤ オモウケン ド。
C おられるでしょう オツテヤ オモウケン ド。
- (12) A 居なかった オツテ ナカッタ。〔自分の娘の場合などであればオレヘナンダなど、
全く敬意のない表現を使う。〕
B 居なかった オツテ ナカッタ。
C 居なかった オツテ ナカッタ。
- (13) A そう言った ソナイ イヨッタッタ。
B そう言った ソナイ イヨッタッタ。
- (14) A (今そこに) 行っていた イッキヨッタッタ ワー。
B 行っておられた イッキヨッタッタ ワー。
C 行っておられた イッキヨッタッタ ワー。
- (15) A 来ている キトツテ ネン。
B 来ておられる キトツテデス ネン。
C 来ておられる メーテマス ネン。/ミエトツテデス。〔ミエルと～テ(ヤ)で二重敬
語になっているが、テヤ敬語の敬意が低いため、不自然には聞こえない。〕
- (16) A 仕事をしておられる シゴト ショツテヤ ワー。
B 仕事をしておられる シゴト ショツテヤ ワー。/シゴトチュ ューヤ。
- (17) A 見せてもらった ミセテモロタ。/ミセテモ ータ。
B 見せてもらった ミセテモロタ。/ミセテモ ータ。
C 見せてもらった ミセテモロタ。/ミセテモ ータ。

- (18) A 見せてくれた ミセテクレタッタ。／ミセテクレタ。〔ごく親しい友達の場合〕
 B 見せて下さった ミセテクレタッタ。
 C 見せて下さった ミセテクレタッタ。
- (19) A 私に下さった ワタシニ クレタッタデス。／クレテデシタ。
 B 私に下さった ワタシニ クレタッタデス。／クレテデシタ。
- (20) A いただいた モロタ。／モロテン。
 B いただいた モロタ。／モロテン。

2. 謙譲表現

2-1 謙譲表現

- (21) A 私も (元気だよ)。 ワタシモ。〔他に「ウチ」「ワタエ」(古)「ワシ」(稀)も聞く。〕
 B 私も ワタシモ。
 C 私も ワタシモ。
- (22) A 十分に食べました モー ヨー ヨバレマシタ ワー。
 B 十分にいただきました モー ヨー ヨバレマシタ。／モー ジューブン イタダキマシタ。
- (23) A 持ちましょう モチマホ カー。
 B 持ちましょう モチマシヨ カー。／オモチシマシヨ カー。(稀)
- (24) A 待たせたね オマツトハン。<「お待ちどうさま」の転訛形。>〔少し気を使う相手には「オマツトハンダシタ」が使われる。〕／エライ マタシテ ゴメン。
 B お待たせしました エライ オマタセシマシタ。／オマタセシテ スンマヘン。
 C お待たせしました エライ オマタセシマシタ。／オマタセシテ スミマセン。
- (25) A 駅で待ってるよ エキデ マツトン デー。
 B 駅で待っていますよ エキデ マツトリマツ セ。
 C 駅で待っていますよ エキデ マツトリマス。
- (26) A 言ってくれ (スマンケド) ユートイテ ナー。／ユートイテン カー。
 B 言って下さい スンマセンケド ユートイテクレテデッ カー。
 C 言って下さい スイマセンケド ユートイテクレテデッシャロ カー。／ユートイテクレテヤ ナイデス カー。
- (27) A これをやろう コレ アンギョ。／アイ(エ)マー。
 B これをあげましょう コレ 下ーゾ。〔「あげる」を避けて、「コレ ツコテ ナイデッ カ。」「コレ タベテ ナイデッ カ。」などと代用する。〕く「あげる」は基本的には謙譲語であるが、敬意が低い目上には使えず、さりとして「差し上げる」はあまりに改まりすぎということで、このような表現をとっている。「あげる」の使用範

困はせいぜい同輩が目下で、謙譲語としての役割をほとんど失っており、自己の言葉遣いを上品に見せる、「やる」の美化語と考えるのが適当であろう。)

C これをあげましょう ツマラナイ モノデスケド コレ 下ーゾ。 [「あげる」を避けて、「コレ オツカイニナリマセン カ。」「コレ イカガデス カー。」などと代用する。]

(28) A 買ってやった コータッテン。

B 買ってやった コータリマシテン。

C 買ってやった コータリマシテン。 (テヤルの変化したタル、テアゲルの変化したタゲルがよく聞かれる。タルは上から下へ恩恵を施すという感じが強く、品位のない言葉である。タゲルも謙譲語アゲルを含むが、敬意不足で上位者には使いにくい。)

(29) A 主人はもう帰っている モー モドットリマス。 [「モー カエツトッテヤ オモウデスケド」「モー モドットッテデス。」のように、身内に対して敬語を使う人もいる。]

B 主人はもう帰っています モー モドットリマス。

3. 丁寧表現

(30) A 行くよ ヘー イク ワー。 / イクー。 / イク デー。

B 行きます イキマス。 / イコ オモトリマス。 / イキマッ セ。 [ちょっと心安い人の場合]

(31) A 今日は寒いね キョーワ サムイ ナー。 / サム ナツタ ナー。

B 今日は寒いですね サムイデン ナー。 / サム ナリマシタ ナー。

C 今日は寒いですね サムイデス ネー。 / サム ナリマシタデス ネー。

(32) A 居るよ オル デー。 / オル ヨー。 / オリマッ セー。 [マッセはマス+デの転訛形で、丁寧語のマスが含まれている割には丁寧度はそう高くなく、親しい友人に対しても使用されている。]

B 居ます ハイ オリマス。 / オル ツモリデス。

(33) A よかったねえ ヨカッタ ナー。

B よかったですねえ ヨカッタデン ナー。 / ヨロシマシタ ナー。

C よかったですねえ ヨカッタデス ネー。 / ヨロシマシタ ネー。

(34) A そうか アー ソー。 / アー ソー。

B そうですか アー ソーデッ カ(カ)。

C そうですか アー ソーデス カ(カ)。

4. 人間関係に応じた待遇表現

4-1 特定表現の待遇表現

- (35) その角を曲がって右へ行くと～ ソコノ カドー マガッテ ミギー イタッタラ ヨロ
シー ネヤワ。／ソコノ カドー マガッテモータ ミギー イテモータラ～ (稀) [マ
ガッテモラッテは言わないが、マガッテモータ、イテモータラのような言い方はある。]
- (36) とんでもない イーエ ワタシヤ ナイデッ セ。／イーヤ チガイマッ セ。[「ト
ンデモナイ」は若い人のことば。「メッソモナイ」は使うが、かなり改まった言い方。「ト
ンデモゴザイマセン」は耳にしない。]

4-2 多人数場面の待遇表現

- (37) (世話役を引き受けるとき) ヤクニ タタヘンヤロケド ホナ サシテモライマシヨ
カ。／サシテモライマホ カ。 (主に老年層において男女ともに、イキマシヨ→イキマヒヨ
→イキマホのように、sy→hy→hの音転訛が見られる。)
- (38) 今度の旅行には参加者が少ないので、皆さん参加してほしい コンダノ リョコーワ サ
ンカシャガ スケナイサカイ ドナイド イテクレテヤ オマヘンヤロ カ。／ドナイド
イテホシーンデッケン下。

4-3 位相による待遇表現

(39) 朝9時頃の挨拶と「どこへ行くのか」

1. お寺の住職さん オサムーゴザイマス。下チラエ オデカケデス カ。
2. 校長先生 オサムーゴザイマス。キョーワ ゴシュッチョーデス カ。／オデカケデス
カ。
3. 見知らぬ年輩の男性 オハヨーゴザイマス。／オサムーゴザイマス。 [その人がキョロ
キョロしているのであれば「ドコド サガッショッテンデッ カー。」などと続けて声も
かける。]
4. 見知らぬ年輩の女性 (同上)
5. 顔見知りの年上の男性 オサムーゴザイマス。下コイキデッ カ。 [この場合はだいた
い相手の「へー チョット。」でおしまいになる。]
6. 顔見知りの年上の女性 (同上)
7. 10歳ほど年下の見知らぬ男性 向こうが会釈をすればそれに応える程度。]
8. 10歳ほど年下の見知らぬ女性 (同上)
9. 同級生の男性 サムナリマシタ ナー。下コ イッキョッテ ノン。／下コイキデッ
カー。
10. 同級生の女性 サムナッタ ナー。下コ イッキョッテ ノン。
11. 10歳ほど年下の顔見知りの男性 [向こうが挨拶か会釈をすればそれに応える程度。時
に相手によっては「サムナッタ ナー。下コ イッキョッテ ノン。」などと声を掛ける
こともある。]
12. 10歳ほど年下の顔見知りの女性 (同上)
13. 近所の中学生の男の子 オハヨー。イマカラ ガッコー カー。／キョーワ ヤスミ
カー。

14. 近所の中学生の女の子 (同上)

Ⅲ. 総括 (まとめ)

以上の調査結果をもとに、当該地域の待遇表現の実態をまとめてみると、次のような特徴が見出される。

1. 当該地域の尊敬表現として特徴的なのは、テヤ敬語である。このテヤ敬語は、「大阪のハル、神戸のテヤ」と言われたほど神戸の特徴的な言葉として、神戸市を含む摂津・播磨地方で広く用いられていた。しかし、最近ではハルの勢力がどんどん西に広がって神戸市を取り込んだようで、すでに若者層の間では聞かれない。ところが、本調査地である播磨地方では全く衰えを見せず、老若を問わず盛んに用いられている。
2. テヤ敬語は「～テヤ」の形で現れるのが典型であるが、断定の助動詞ヤの代わりに、その丁寧語デスが用いられたり (例えば、(6)A ミテデシタ カ。)、文末詞ネンが用いられたり (例えば、(15)A キトツテ ネン。) もする。また、断定の助動詞ヤのない形 (例えば、(2)A アシタ オツテ カー。/(8)A ドコ イテ ノン。) もテヤ敬語同様に尊敬の意で用いられている。
3. テヤ敬語の表す敬意はそう高いものではない。それは、この話者が親しい友人に対しても使用していたり、(29) で身内に対しても用いられていることから明らかである。そして、この敬意の低さが逆に有利に働き、共通語の敬語との棲み分けを可能にしているものと考えられる。
4. 敬意の高さに応じて、「親しい友人」にはテヤ敬語、「近所の年長の人」にはテヤ敬語+丁寧語の「です」、そして「この土地の目上の人」には共通語の敬語、という使い分けのパターンが見られる。
5. (9)の「タベトー」<稀>は「タベトーナ」とも聞かれ、当該地滝野町の旧加茂地区(本調査の話者は旧滝野地区)及びそれに南接する社町や東条町の特徴的な方言である。敬意は微弱であり、親しい友人の間でも使われている。また、「タベトー」地域には、「食ベトリタ」(食べておられた)、「食ベナイカ」(お食べなさいませんか)、「食ベヨリノ(ヨイノ)」(食べておられるの)などの敬語表現も聞かれるが、「タベトー」同様、敬意は微弱である。
6. (17)等に見られる「タッタ」はテヤッタの縮約形と考えられるが、当該地の北部に近接する多可郡中町・加美町では、「テジャ・テジャッタ」の縮約形と考えられている「見チャッタ」「見とっチャッタ」のような「～チャッタ」形が聞かれる。また、「乗ンナハル」「行ットンナハル」のような「～ナハル」形も老人層で盛んに用いられており、当該地滝野町とは異なった状況を示している。(なお、5. 6. 項は、丸山三郎著『北播磨の方言』に詳しい。)
7. 謙譲表現は、尊敬表現に比べてあまり発達しておらず、専用語形として「ヨバレル」、敬語的要素を付加するものとして「～サシテモラウ」(「明日行かシテモライます」等)などのほかは共通語形に頼っている。

8. 関西での身内敬語は有名であるが、当該地においても(29)の例のように、妻が夫に、あるいは嫁が舅にと、身内に敬語を使う例がしばしば見られる。その場合には、敬意のそう高くないテヤ敬語が使われるのが一般的である。
9. 丁寧語は「デス」「マス」「ゴザイマス」という共通語形のほかに、高齢層に「ダス」が残っている。話者によれば、「デス」は共通語意識で使い、「ダス」には方言意識があるとのこと。ただし、「デッカ」「デッサロ」「デンナー」などのように複合形になった場合には、「デス」も方言意識で用いられ、(33)・(34)からも分かるように、「デスナー」「デスカー」のような共通語形より一段低い敬意を表す表現として用いられことになる。
10. 丁寧語の「マス」についても同様に、方言意識で用いられる「マッセ」「マッサロ」「マヒョ (マホ)」などは、共通語意識の「マスヨ」「マスデショー」「マショー」に比べて一段低い敬意が表されている。
11. 以上の考察及び(39)の「位相による待遇表現」からも分かるように、当該地においては「共通語の敬語表現」と「敬語なしの表現」との間に「方言の敬語表現」があって、この三つが三層をなしつつ色々な待遇場面に応じて使い分けられている。

(くろさきよしあき 園田学園女子大学)